

TRAIL



大阪府教育センター附属高等学校 校長通信 No.4 令和8年7月発行

今日の終業式では、ミハエル・エンデ作『モモ』という本のお話をしました。『モモ』の紹介文にはこのように書かれています。

時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子モモのふしぎな物語。人間本来の生き方を忘れてしまっている現代の人々に〈時間〉の真の意味を問う、エンデの名作。

このように、「モモ＝時間の大切さ」と言われることが多いのですが、実は、『モモ』を読んでいて、私の心に一番残ったのは、モモのまわりにいた仲間たちでした。

モモのことを心配する人。支えようとする人。一緒に話を聞き、時間を過ごす人。

人は、一人だけで前に進むわけではありません。**迷ったとき、立ち止まったとき、誰かの言葉に助けられることがあります。逆に、自分が誰かを支える側になることもあります。**

夏休みという時間を有効に使って、誰かを支えるための言葉を、ぜひみなさんの身体の中に蓄えておいてほしいと思います。さあ、何から始める？

「誰かを支えるための言葉って、どうやって蓄えるの？」と思った人、

例えば、読書もその方法の1つです。

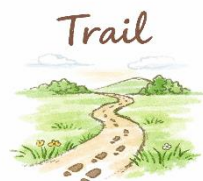
本を読めば、自分とは感じ方、考え方の異なる人が、

どのように人生を生きていくのかを**疑似体験**することもできます。

いつもの自分なら思いつかない言葉を見つけられるかもしれません。

心惹かれるタイトルや表紙、薄くて読みやすそう、などなど、気になる1冊から始めてみましょう。

では、最後に「私の本棚」のコーナーです。



～ 私の本棚 ～

本と向き合った時間・記録はあなただけの大切な財産です。

1冊1冊との出逢いを大切にしましょう。

冊数	出逢った日	本のタイトル	著者
4	6/10	モモ	ミハエル・エンデ
		感じたこと・考えたこと・覚えていたいこと	
		時間とは、生きるということ、そのもの みんなに平等に与えられる時間を、どのように使うかで 人生の豊さは変わる	